

シニアの楽しみ広がる

ゴーグルで自由自在に

VR

時空超えて疑似体験



段ボール製のゴーグルで岐阜県の白川郷のVR映像を楽しむ三井多摩さん(右)と登嶋健太さん=東京都文京区の東京大

「VR(バーチャルリアリティ、仮想現実)」は、目元を覆うゴーグルを装着する姿から、若者が楽しむイメージがあるかもしれない。でも、時間や空間を超えた光景に入り込んで疑似体験ができるなど、シニア世代に意外な楽しみをもたらしている。ちょっと遠いけど行ってみたい観光地、今は戻れない懐かしの風景も、自由自在に面白さを味わってみては。

懐かしい記憶

VRで再現



上下左右に風景が映し出されるVRは、行ったことのない場所の雰囲気やリアルに味わうことができる。ましてや、行ったことのある場所なら、懐かしい記憶がどよよとよみがえってくる。豊富な思い出を持つシニア世代には、素晴らしいエンターテインメント体験だ。



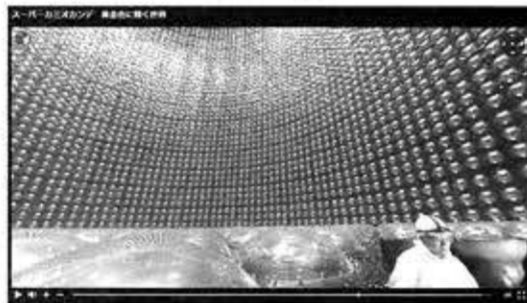
VR映像の撮影を行う登嶋健太さん(左端)とVR講座の受講生ら。車いすに360度カメラを取り付けてキャンパス内をみんなで歩く。手元のタブレットで映像を確認=東京都文京区の東京大

360度映像が100本以上

「NHK-VR」で見ることができる「阿波おどり」の情景



「NHK-VR」で見ることができる岐阜県飛騨市にある研究施設「スーパーカミオカンデ」の内部



「NHK-VR」で見ることができる岐阜県飛騨市にある研究施設「スーパーカミオカンデ」の内部

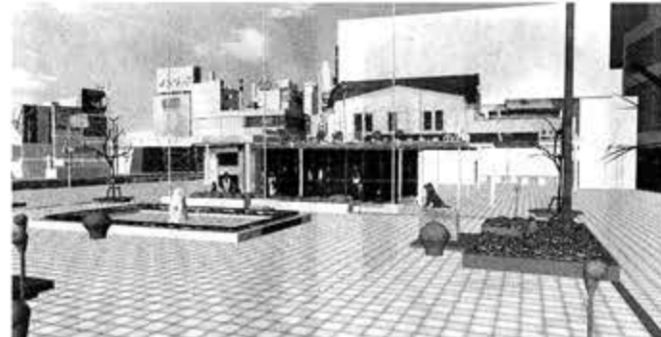
NHKがネット上で公開

VRがどういったものなのかを知るのにつけては、NHKがインターネット上で公開している「NHK-VR」(https://www.nhk.or.jp/vr/)だ。パソコンやスマートフォン上の画面上で、ニュースや番組の映像を360度の視界で楽しむことができる。

Googleを使う必要がないので、その場にいるような没入感はないが、画面上のボタンを操作するだけで上下左右に映像が動き、現場の様子を空間として見ることが可能。見たい箇所をズームして大きく表示させることも可能だ。

現在、ニュースやスポーツなど100本以上のVR映像が視聴でき、週に1〜2本程度のペースで新作がアップされている。報道局ネットワーク報道部の足立義則副部長(50)は「テレビ画面で区切られない現場の臨場感を体感してもらえたら」と話している。

ハチ公像の向きが違う渋谷駅 64年の風景をVRで再現



1964年当時の渋谷の街の風景を再現したVR映像。写真を基に再現された1964年当時の渋谷駅の風景

VRを使えば、遠く離れた場所だけでなく、もう失われてしまった過去の懐かしい風景の中に身を置くことも可能だ。来年の東京五輪を見据え、前回の五輪開

「あつ、そうそう、こういう感じなのよねえ!」東京都文京区の東京大学の1室。段ボール製の簡素な

研究センターの学術支援専門職員、登嶋健太さん(32)。からVRの技術を学んでいる。VRの機器や技術は日進月歩で、シニアの方でも少し学べば、手軽に扱えるものになっていきます。旅行先の風景をVR撮影して

「開業は15年後の79年で、64年のこの辺には洋品店が店を構えていました。まさにタイムスリップだ。現在はまたイベントなどで限定的に体験することしかできないが、将来的には常設展示を計画している。宮田さんは「前回の五輪当時の鮮明な記憶を持っている。今のシニア世代には、このVRを一番楽しんでもらえるはず」と期待している。

ファーストクラスでごちそうも

VRを使ったユニークなビジネスも行われている。飛行機の内部を模した部屋の中に設置されたファーストクラスのシートに腰掛け、海外の観光地の情景をVRで見学。豪華な「機内食」も楽しむという約100分の「バーチャル海外旅行」だ。



客室乗務員姿のスタッフが豪華な「機内食」を提供。東京・池袋の「FIRST AIR LINES」